

JTU

埼玉高教組

ニュース

発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギンタビル4F



くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

NO. 672

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

上映会 「原発を止めた裁判長 そして原発を止めた農家たち」

2023年12月26日 くじら会議・上映会

『原発事故のもたらす被害は極めて甚大である。それゆえに、原発には高度の安全性が求められる。地震大国日本において、原発に高度の安全性があるということは、原発に高度の耐震性があることにほかならない。しかし、我が国の原発の耐震性は極めて低い。よって、原発の運転は許されない。』

大飯原発の運転停止及び高浜原発の再稼働差止の仮処分判決を下した福井地方裁判所の元裁判官の樋口英明さんは、前述したような論理展開でこれまでの判決とは異なる決定を下した。

原発は核分裂反応を止めても、電気で水を送り続けてウラン燃料を冷やし続ける必要がある。もしも、停電や、断水が起こるとたちまち「過酷事故」を引き起こす。これは福島原発の事故が証明していることである。原発とは運転を止めるだけでは安全を確保できないという、私たちの常識が通用しない技術であり、その原発の配電や配管は耐震性が低いために強い地震による停電や断水の危険性が大きいというのが樋口理論の根底をなすものである。しかし、電力会社は「この原発敷地に限っては震度6や7の強い地震は来ませんから安心してください」と云っている。この電力会社の言い分を信用するかしないかが原発訴訟の本質であると述べている。

樋口さんは大飯原発差止判決の最後を以下のように結んでいる。『被告(関西電力)は、原子力発電所の稼働がCO2排出削減に資するもので環境面で優れている旨主張するが、原子力発電所でひとたび深刻事故が起こった場合の環境汚染はすさまじ

いものであって、福島原発事故は我が国始まって以来の最大の公害、環境汚染であることに照らすと、環境問題を原子力発電所の運転継続とすることは甚だしい筋違いである。』

劇中、東日本大震災での福島第一原発事故で想定された東日本壊滅という「最悪のシナリオ」が、「偶然」「奇跡」によって回避されていたという事実も紹介されていた。その事実を知っているにもかかわらず脱原発から原発回帰へと大きく舵を切った自民党政権にはやはり国の舵取りを任せてはおけない。

映画の後半では「原発をとめる農家たち」＝福島県二本松市で農業に従事する人々が紹介される。ソーラーパネルを備えた支柱がびっしりと立つ見慣れない畑が登場する。「垂直型ソーラーシェアリング(営農型発電)農場」はドイツから輸入された技術で、垂直に立てられた両面太陽光パネルは東西に移動する太陽光を余すところなく受けて発電するシステム。農場のある福島県二本松市の約19000世帯の10%の電力を供給可能であるという。代表の近藤さんは「近い将来、軍備費の一部をソーラーシェアリングに割り振り、再エネと農業(新技術と従来産業の軋轢)、地方と都市(地域格差)、若者と年配者(世代間格差)の融合が実現し、未来に怯えることのない世界・地域を作ることをあの地で語り合いたいものだ」と訴える。

元日の能登半島地震は日本が地震大国であることを改めて痛感させるものだ。こんな国に原発は要らないということを私たちは声を大にして言い続けなければならないと確信している。

LINE公式アカウントを通じた新たな繋がり 初の試み「初任者座談会」

私たち埼玉高教組(通称くじら)は、昨年、LINE公式アカウントを開設し様々な情報を発信しています。組合員だけでなく、初任者の方たちにも登録を呼びかけたところ、当初の予想を大きく上回る方が登録してくださっています。

そうした初任者の方たちへのアンケートを実施すると、職場で様々な不安を感じていることがうかがえます。そこで、2023年12月25日、くじら初の試みとして「初任者座談会」をzoomで行いました。今回は本採用2年目のくじら組合員と組合未加入の初任者の方とで話をすることができました。

その内容を一部抜粋してお知らせします。

【初任者からの質問】

Q1. 来年から担任を持つことになるが、どんな準備をしたらいいのだろうか？

【組合員からの回答】

A1①. 先輩の先生方のSHRを実際に観に行っ

聞いてみてアイデアを膨らませるといいかも！
A1②. 係、委員会、時間割など、決めることや知らせることはたくさんあるから、昨年度の1学年のデータを使って事前に作ってみると安心です！

他にも「Q2. この忙しい中で教科指導の準備はどうしたらいいのだろうか？」「Q3. 初めての学級懇談会でまず何を話せばいいの？」と誰もが一度は持つ悩みに対して、親身になったアドバイスが行われました。

今回の企画は、今後も継続していく予定です。職場ではなんだか話せないな、でも悩みを聞いてほしいなという初任者の皆さん！私たちくじらの組合員はいつでもお待ちしております。企画の情報は随時くじら公式LINEアカウントからお届けしています。登録がまだお済みでない方、ぜひくじら公式アカウントへの登録をお待ちしています！

恒例の白鯨スキーツアー 白鯨、今年も尾瀬のゲレンデに 美しいシュプールを描く

一面雪景色、とはならず雪不足で大部分が草木のゲレンデ。でもやっぱりここは異世界。準備を終え雪上に立つとワクワクしてきます。

今年初めて白鯨スキーツアーに参加しました。半日ほど娘2人をコーチにお願いし、久しぶりにひとり滑りを満喫。直滑降のハの字しかできなかった子供たちが、コーチのマジックのような指導により美しく曲線を描き滑れるようになりました。

宿でもらったおにぎり、レンタルショップでもらったりんご、そしてたくさんの思い出と共に帰路へ。最高の冬休みでした。(K・N)



「能登半島地震」 災害救援緊急カンパのお願い

1月1日に発生した「能登半島地震」により犠牲になられた方々に心から哀悼の意を表し、被災者のみなさまにお見舞いを申し上げます。

日教組・埼玉高教組は被災地の子ども・教職員の救済、学校教育の早期復興等に充てるため被災者救援のためのカンパ活動を行います。

組合員は一人500円以上の任意カンパをお願いします。また、ご協力いただける教職員の方は、職場の埼玉高教組組合員までお申し出ください。